

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年5月14日

事業所名 八尾市立障害者総合福祉センター

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	0%	(放デイ)人数により部屋を仕切るなど柔軟に対応している	
	2 職員の配置数は適切である	50%	50%	0%		利用者と職員の人数を考えて効果的に配置できるように努めます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	90%	0%	10%	いろいろ職員間で意見を出し合いながら工夫している 出入り口に段差がない。	より過ごしやすい空間になるよう考えていきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	0%	半年に一度、主に小学校低学年の児童について、今何をすべきか話し合っている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%	0%	法人全体で大阪府社協の第三者評価を3年前に受診、留意すべき点を確認している。	
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	90%	10%	0%	令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、中止になる研修も多かった。	児童を主にした研修の機会を増やすように努めていきます。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	年2回実施している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	0%		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	ミーティングで何をすべきか話し合い決めている。スケジュールをそれぞれ組んで実施している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	日によってレクリエーションの内容を事前に決めて対応している。季節の制作・行事を取り入れている。毎日利用する児童もいるため固定しないよう工夫している。月別に担当を決め、多様多彩になるように工夫している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	早めの時間に下校している児童に個別の時間を設けて支援している。午後4時以降は集団活動を主に取り入れている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	平日は13時より当日の役割分担等話し合う打ち合わせを行う。月1回は会議を行い確認している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	40%	60%	0%	勤務終了時刻が異なるため、打ち合わせはできていないが、気づきノートを作成し、情報共有している。また翌日の打ち合わせの際伝達を受けて振り返っている。気になる点は責任者に伝達し連絡ノートにも記載している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	毎日、パソコンに記録を残し経過を観察している。早い時間に帰ってくる児童のレク内容も記録している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	90%	10%	0%	ミーティングなどで課題となることがあれば見直しを行っている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	70%	30%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	実際に児童に接している職員で話をしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	90%	10%	0%	主治医と直接連絡することは少ないが、保護者を通じて細かく打ち合わせている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80%	20%	0%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	90%	10%	0%	生活介護等他のサービスの利用に移行する際に担当者に今の状況を伝えている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	0%	保護者より、訓練の様子を聞き取ったり、検査結果の提示をしてもらっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10%	20%	70%	新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。	感染症の流行状況も見ながら、今後について検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50%	30%	20%	新型コロナウイルスの影響もあり、開催中止になることもあったが、連絡を取り合いながら積極的に参加した。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	電話や連絡帳で十分に伝えて相互理解ができるように努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	40%	50%	10%	ペアレント・トレーニングとまではいかないが、センターで行っている支援内容を伝えて共有している。面談の際に困っていることを聞き、話を少しアドバイスしている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	90%	10%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10%	70%	20%	新型コロナウイルスの影響もあり、計画したが断念した。	今後の開催方法について検討をしていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	昨年からはきずな新聞を3か月に1度作成して、日常の様子を分かりやすく写真等載せて発信している。評判もよく喜んでいただいている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	アセスメントなどの資料は、鍵がかかるロッカーに入れている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	60%	40%	0%	新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	20%	0%	各マニュアルは策定済で各職員に配布している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	30%	60%	10%	職員間では避難経路など周知している。	新型コロナウイルスの影響により計画通りにすすみませんでした。長期休み等に訓練を今後行う予定です。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	70%	30%	0%		今後も大阪府の研修などに参加し、伝達講習を行っていく予定です。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	80%	20%	0%	放課後等デイでは今までにそういうケースはないが、センターでは、適切に対応している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	0%	保護者を通じて主治医に確認し対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	各部署に配布している。	